

藤島地区説明会で寄せられた質問と回答

| 質問 | 回答 |
|--|---|
| <p>① 鶴岡市で小中一貫教育を導入するまで時間がかかっている。また、学校の老朽化、児童生徒数の減少に着眼し一挙に解決できるものと進めてきている感じがする。</p> <p>② 藤島の小学校と中学校は令和7年以降、端的にどうなるのか。教育委員会中心に事業を進めているが、市長と議会との関係は現在、どのようになっているのか。</p> <p>③ 小中一貫教育を進めることは理解できる。非常に良いことであり、小学校と中学校の先生の連携などは分かりやすいが、果たして、小中一貫教育でないとできないことなのか。体制の壁があるからだと思うが、今、できない理由は何か。</p> <p>④ 老朽化の問題があるが、小学校は3つ残したままで小中一貫教育を進めていくのか。</p> | <p>① 本市では小中一貫教育の事例を精査し、必要な取組みと判断し導入を決めた。子どもたちにより質の高い教育を提供するために準備を進めている。ただ、準備期間が必要なので令和7年度のスタートとしている。</p> <p>② 令和7年から、現在の小学校と中学校の校舎で小中一貫教育を進めていく。このことは、市内全ての中学校ブロックで同じである。議会には、機会をとらえ現在の取組みを説明をしている。藤島中の改築は喫緊の課題なので丁寧に説明していきたい。</p> <p>③ 小中連携教育として、現在、小学校、中学校それぞれ持ち回りで授業を研究することをしている。小中一貫教育を導入することにより、このようなことを計画的にまた頻繁にできるようになる。</p> <p>④ 義務教育学校を建てることは決まっていない。小中一貫教育の3つの形態のうち何を選択し、藤島中改築にあわせてどのような教育環境で子どもを育てていくのか、他地域に先行し相談している。藤島の強みは3つの形態どれでも選べること。藤島小と藤島中が隣接しているが、このような場所は稀であり、敷地的には義務教育学校が可能である。この強みを生かすか、それとも、藤島中だけ改築となれば、渡前小や東栄小では複式学級と老朽化の問題が続く。また、藤島中改築にあわせて他の小学校改築に投資できる力はない。藤島地域では少子化が進んでいるなか、地域としてどのような教育環境を残すかが問われている。議論を尽くしてなるべく早く結論を見出すことができるよう、これからも説明をしていくので、地域の声を聞かせてほしい。</p> |

東栄地区説明会で寄せられた質問と回答

| 質問 | 回答 |
|--|--|
| <p>① Q&A集に、東栄小学校区から藤島中までのスクールバス通学時間が50分と書かれているが、それはバスの乗車時間か徒歩も含まれているか。東栄小学校区の各集落からバス停までの歩く時間は。仮に小中一貫校が藤島中の場所にできて、東栄地区の小学1年生がスクールバスで通学するとなった場合、50分は大変だが配慮はあるのか。</p> | <p>① 1つ目の質問について、バスの乗車時間であり自宅からバス停までの徒歩時間は含まれていない。2つ目の質問について、スクールバスのバス停は、基本的にバスが通ることができ、停車した場合、対向車や後続車の邪魔にならない道路で、午前8時前後に学校に到着すること、また、通学時間が概ね1時間以内となるよう時間的なロスが生じないように効率的なルートとすることを前提に、できるだけ各町内会の中心地に近いところに置かれている。ただし、例えば関根町内会では、東栄小への登下校では冬季のみスクールバスが運行されているが、関根を構成する集落が複数ある場合、必ずしも関根の中心ではなく、樫と新田をつなぐ県道の上に1箇所、また新田に1箇所、置かれている。そのため、中村や下村の方は県道添いのバス停まで10分前後歩いている状況もある。3つ目の質問について、仮に、東栄小の低学年の子が、現在の藤島中のエリアに通学するとなった場合の配慮だが、教育委員会として新しい小中一貫校を設置し、そこに藤島全地区からスクールバスで通学するとなった場合、通学対策は大きな課題であると認識している。一方、教育委員会が運行を委託しているバス業者では、運転手不足や高齢化などに直面しスクールバスの運行確保が難しいという状況もある。先ほどの基準を基にできるだけきめ細やかな通学対策について検討するが、一方、予算にも関わることから、現時点で具体的なお話を申し上げることが難しいことをご了解いただきたい。</p> |
| <p>② 小中一貫教育導入を決定した会議のやり取りを見ることはできるのか。その会議は何なのか。</p> | <p>② 組織として導入を決めたのは昨年6月の鶴岡市総合教育会議である。この会議は市長が招集し、教育に関する重要な事項について市長部局と教育委員会とで意見を交わす場であり、その会議において、鶴岡市に小中一貫教育を導入し推進したい旨、教育委員会から話をさせて頂き進めていこうということになった。</p> |
| <p>③ 藤島地域教育振興会議が昨年9月から始まり、今年スケジュールもハードだが住民からの意見をどうやって吸収していくのか。この取組みはトップダウンなのかボトムアップなのか。</p> | <p>③ 今年度に小中一貫教育基本計画を策定するので、藤島地域の小中一貫教育のあり方を検討するのは来年度以降というのが本来の順番である。ただ、藤島中改築が喫緊の課題であること、また、現在、令和4年度からの朝陽五小の改築が進み令和7年度に完全に竣工するスケジュールであるが、教育委員会としては朝陽五小の改築から間を置かず次年度の学校の改築につなげていきたいという思いがある。ここで、藤島中改築の姿が決まらなると、場合によっては朝陽五小の次に</p> |

④ 朝暘五小の後は藤島中ではなくその次に古い学校を改築し、その間に藤島地域で議論を煮詰め、その後に藤島中改築するという選択はないのか。

⑤ 藤島小に東栄小と渡前小が統合し、併設型としての藤島小と藤島中を同時に改築できるのか。

⑥ 小中一貫校になった時、今まで同様にリーダーシップを発揮する機会が少なくなるのではないのか。

⑦ 冬季間に嵐があるので、新しいスクールバス停を設置してくれるのか。吹雪の日にバス亭が除雪されていないことがあるので、しっかり除雪してくれるのか。

取り組めるかどうかも分からなくなってしまう。こういう学校を作りたいという地元の合意が得ることが学校建築の条件となることから、地域の皆さんに説明をし意見を頂きながら計画に反映するような形で、朝暘五小後の改築を速やかにつなげていきたいと考えている。決して、義務教育学校や併設型小学校・中学校とすることは決まっているのではなく、地域の声をお聞きし決めていく。そのためこの取組みはボトムアップである。

④ 選択肢が全くない訳ではない。教育委員会としては、藤島中改築が喫緊の課題だという藤島地域の意向を踏まえて、この取組みを始めたが、まだその時期ではないと藤島地域の合意としてなされるようであれば、教育委員会として、藤島中は朝五小の次の改築学校にならないと判断することもあるかもしれない。しかし、藤島中の状況をみると改築したほうが良いのではと考える。

⑤ Q&A集Q17、Q33のとおり

⑥ 先進事例として、県内初の義務教育学校である新庄市萩野学園では9年間で4-3-2として、1～4年生を前期ブロック、5～7年生を中期ブロック、8～9年生を後期ブロックと3ブロック制を採っている。4年生で前期ブロックのリーダー、7年生で中期ブロックのリーダー、8年生で生徒会全体の運営、9年生で後期ブロックのリーダーと9年間で4回のリーダーを経験させている。義務教育学校を設置するとなれば、小学校からの卒業、中学校への入学がない分、学年の区切りの節目を意識し、リーダーを経験する場を設けるなど教育課程を組んでいくことで対応できる。

⑦ スクールバスの冬の安全確保についての課題は地域ごとにあり、除雪車で対応する方策も1つである。新しいバス停を設置することは今お答えできないが、安全に登下校できる方策を検討したい。除雪は庁舎が対応するので、改めて町内会長と相談したい。

渡前地区説明会で寄せられた質問と回答

| 質問 | 回答 |
|--|---|
| ①小中一貫校になった場合、9年間で節目をどうしていくのか。 | ① 萩野学園では9年間で4—3—2制で前期、中期、後期と分けている。4年生で前期ブロックのリーダーを経験し、一般に中学1年生である7年生が中期ブロックのリーダーを経験する。8年生で生徒会のリーダーを経験し、9年生で後期ブロックのリーダーを経験する。9年間で4回、リーダーを経験する機会を設け、それを節目として成長を促している。義務教育学校では小学校卒業式、中学校入学式の行事はなくなるが、それをカバーするような特色ある取組み、行事を考え取り組んでいくこととなる。 |
| ②いずれは藤島地域に小中一貫校を設置するという流れにあるのか。仮に教育振興会議で義務教育学校がベストと決めた内容が、市の決定となるのか。 | ② 第3回藤島地域教育振興会議のグループ協議で出された委員個人としての意見の中で多かったのが、義務教育学校とする、または、併設型小学校・中学校を選択する可能性である。必ずしも決まったものではないが、藤島地域教育振興会議の結論がそのまま市の方針となるかは別のことであり、地域の希望をそのまま市の方針とする前には、さまざまなステップがある。また、予算も伴うことであるため、議会からの承認も必要となる。最大限、地域の意向を反映させることができるよう、事務局として取り組んでいきたい。 |
| ③令和6年度までに方針は決まるのか。 | ③ Q&A集に示している令和11年という見通しは最短のスケジュールで、藤島地域でどのような議論が今後なされ、市の方針として固められるか、またその期間がどの位かにも影響を受ける。また、藤島地域で様々なご意見が出て、それをどういう方向でまとめるかに時間がかかれば、建設時期に遅れが出てくる。また、建設業界も厳しい状況にあり、大規模の学校であると当初考えていた工期では間に合わない可能性があると話題になっている。11年度は最速のスケジュールとお考えいただき、それが後ろになる可能性もある。様々な不確定要素があり、この場で確実なことを申し上げることができないことお詫びする。 |
| ④併設型小学校・中学校で校舎建設を考えた場合、中学校は建替えないといけないが、小学校はそのままになるのか。また、義務教育学校になれば9年制の学校になるので、その校舎が建設されるという考え方でよいか | ④ 併設型小学校・中学校にはいろいろな形態がある。校舎は1つで併設型小学校・中学校と名乗ることは法令上できるがイメージしやすいように小学校と中学校が並んで別にある形を示している。今の藤島中、藤島小の位置関係のままで9年間を通じた一貫教育をすることが、この併設型小学校・中学校である。義務教育学校は校舎が分かれていてもよいが、やはりイメージしにくいところがあるので、義務教育学校としては1つの校舎で9年間を学んでいくという整理 |

⑤仮に小中一貫教育で1つの校舎にならない場合、今の校舎について耐震工事等を行うことはあるのか。

⑥新庄市では義務教育学校の設置と地元への若者定着率に関係性はあるのか。

をし提案している。併設型小学校・中学校となった場合、今の計画では中学校だけ改築し、小学校は改築年度に応じて改修していくことになる。義務教育学校となった場合は、1つの義務教育学校をつくり、小学生、中学生が学んでいくことになる。

⑤ 本日の資料に、藤島地域の各学校で耐震工事を行ったもの行っていないものを整理しているが、現在、必要な耐震構造をもつ学校は少々の地震であれば耐えうるものである。今後、さらに老朽化していく中で不具合が発生してくることが想定されるが、子どもたちの安全に関わることについては、優先的に対応をしていく。耐震工事の内容はケースバイケースであるが、子どもたちが安全に学べる校舎を維持していくことは、小中一貫校を作る作らないに関わらず、教育委員会で責任をもって対応していく。

⑥ 資料は持ち合わせていないため、分からない。

八栄島地区説明会で寄せられた質問と回答

| 質問 | 回答 |
|--|---|
| ①小中一貫教育における「系統性を重視した学習カリキュラムの開発」とは具体的にどういうことか。 | ① 鶴岡型小中一貫教育では、4つのつながりを大切にしたいと提示している。今後、各中学校ブロックの現状を踏まえて、藤島ブロックではこれを柱にしていこうと、これから検討していくものである。鶴岡型小中一貫教育は、これまでの小中連携教育をさらに強化する取り組みである。藤島小では、魅力のある活動を展開頂いている。それはそれでよいが、最大公約数的に、みんなで一緒にできることは何かを令和6年に中学校ブロックで積上げて、9年間でこういう藤島の子を育てようという「柱」を考えていただく。それぞれの学校が行っていることを系統的な学びという視点で整理する。小学校の文化、中学校の文化は大事なことだが、これからは小学校と中学校の先生が垣根を取り払って、藤島の子どもをどう育てていくのかを考え教育していくこと、そして、鶴岡の全中学校ブロックで行っていくことが大事と考えている。 |
| ②何を目指しての「系統性」なのか。系統的な教育の具体的な点は何か。 | ② 何を指すかは、各中学校ブロックで定める小中一貫教育の目標と「目指す子ども像」があり、どのような力を備えた子どもを育てたい、将来こういう力を持った大人になってほしい、ということを各中学校ブロックで議論し明らかにし、そこに到達するために教科でどのような授業をするか、9年間を見通して計画を立てることになる。 |
| ③小学校と中学校の一緒の校舎は建設可能なのか。 | ③ 全国では義務教育学校として小学校と中学校が一緒になっている学校が178校ある。平成28年にこの制度が始まり、当時は22校だったが全国で建設が進み、階段の高さなど設計の仕方のノウハウも蓄積されている。県内でも、萩野学園、明倫学園、戸沢学園がある。飯豊町や朝日町でも義務教育学校をつくる予定である。 |
| ④学年の区切りはどこに設定するのか。5—4制になったときの履修内容など学年段階の区切りは何に影響があるのか。 | ④ 例えば、4—3—2で学年を区切った場合、履修する内容は当該学年の内容となるので、義務教育学校の4年生と普通の小学校の4年生と履修する内容は同じである。義務教育学校では中学校1年生が7年生と呼ばれるが同様である。また中期の3年間は5年生、6年生、7年生となるが、例えば中学校の教科担任制で学ぶこともできる。そのようなメリットが義務教育学校にある。 |
| ⑤藤島中の改築はどうなるのか。 | ⑤ 朝五小の次の改築校について、議論が遅れていけば改築も遅れていく。藤島地域の全部の学校を一体にすることもできるし、今のままとすることもできる。藤島中改築のタイミングで小中一貫教育のどの形態を選ぶのか、地域で藤島の学校をどのような良いものにしていくかを考えていきたい。 |

長沼地区説明会で寄せられた質問、意見

| 質問 | 回答 |
|--|--|
| ①小中一貫教育を導入した際に、いじめや不登校の課題は改善されるのか。 | ① 小中一貫教育を導入することで、意図的な交流等による児童生徒の心の安定が図られ、いじめや不登校が減少すると結果が示されている。また、小学生と中学生との積極的な交流や教職員の関わりも増えてくるので、例えば、中学校の教員が小学校の児童をより知ることや小学校の教員が中学校に情報を引き継ぐことが、今以上に活発になることが想定される。このような9年間を通じた教育によって、いじめや不登校の減少に効果を発揮するのではないかと考えている。 |
| ②小中一貫校の校舎は小学校と中学校で階違いとなるのか。同じ校舎となるのか、同じ場所にあるだけなのか。 | ② 併設型小学校・中学校のなかで、一般的で事例が多いのは、同じ敷地の中に小学校と中学校が別々に並んで建つような今の藤島小と藤島中に近い形である。義務教育学校になると1つの校舎の中に1年生から9年生まで生活することになる。 |
| ③旧藤島町では、平成6～7年に藤の花ニュータウン造成に取り組んだが、この結果、地域の人口は増えたのか。 | ③ 人口減少傾向のなか、藤の花ニュータウンとして200戸以上の住宅地を開発した。特、子育て世代等への支援を厚くした住宅団地であったこともあり、藤島小では300人規模が続いてきた。これは住宅地開発の効果と認識している。ただ、開発から25年が経過し、子育て世代も代替わりしたため、今の児童生徒数には反映されていない。 |
| ④小中一貫校では校舎新築時に国の補助率が1/2になるが、補助率が下がっても小中一貫教育を進めていくのか。 | ④ 義務教育学校では補助率が1/2で、通常の学校よりも財政的なメリットはあるが、これありきでなく単に藤島中だけを改築すれば1/3、可能性としてありうる義務教育学校を建築すれば1/2という現状を示している。その時に何を選択するかで、その時の補助率が決まるものであり、数年後がどうなるかは市教育委員会としても分からないことを前提に、藤島地域の声をお聞きしている。 |
| ⑤藤島地区に新しい学校ができる場合、東栄地区や渡前地区で現在学校までの距離が2km未満で徒歩になっている児童はスクールバス対応になるのではと思うが、運行台数によって経路が伸びていくことも考えられるが果たして大丈夫か。 | ⑤ スクールバス運行については、東栄地区の説明会で冬季だがスクールバスの乗車時間が東栄地区では50分かかる状況もあり、例えば小学校1年生が50分間、バスに乗ること大変だという意見は、保護者の方や藤島地域教育振興会議委員からも寄せられている。具体的な解決策として、例えば、小型のスクールバスを運行することや台数を増やすというアイデアを頂いている。ただ、教育委員会が運行を委託している交通事業者においては、運転手不足や高齢化という課題もある。そのような状況を見ながら、教育委員会としては、きめ細やかな通学対策や効 |

| | |
|--|---|
| <p>⑥長沼は書道錬成やけん玉、ボーイスカウトなど他の地域と比べて特色ある学校、地域だったと思う。統合し5年が経過したが、その活動の現在どうなっているのか。</p> | <p>率的なスクールバスの運行は検討していきたい。なお、どの集落に何年生のお子さんがあるかなどは、都度変わっていくものであり、それに応じた効率的なルート計画を使命として、毎年度、取り組んでいる。仮に、1つの学校になって、藤島の全地区からそこに通学する場合の、小学校低学年の配慮は十分検討していきたい。</p> <p>⑥ 第5回会議で、長沼地区自治振興会の高橋会長のご発言のとおり</p> |
|--|---|